

飛鳥ぶと

2025年
秋・冬号
No.21

p2 スペシャルインタビュー

万葉歌の魅力を 旋律にのせて伝えたい

岡本 三千代

p4 飛鳥の継ぎひと

飛鳥ファンの裾野を広げた 結成18年の歴史サークル

p5 令和あすか塾《特別寄稿》松井一晃

天武天皇の権力と治世

p6 飛鳥の若ひと

西本 将(森林作業員)

p7 ゆかしき言の葉

「君が手取らば」井上さやか

「飛鳥・藤原まると博物館」検定

「高校3年生の挑戦!」柳谷勇翔

題字／鳥頭尾 精

写真／「紅葉の石舞台」吉田芳雄

「明日香路を写そう写真コンクール」第31回入賞作品

活動報告

飛鳥駅前サポーターによる 「花修景事業」を実施



1



2

1) 駅前の景観向上だけでなく、いろんな方との交流の場にもなっています。
2) 冬の植栽の様子。植栽のほかにベンチの再塗装やかかし作りなども行っています。

活動報告

飛鳥応援大使主催 「凧揚げ大会」を実施



1



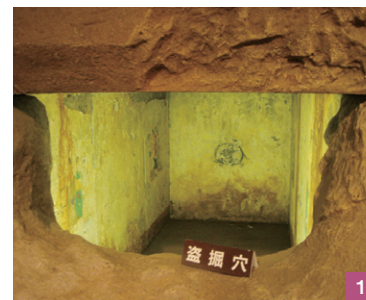
2

1) 凧の製作風景。子供たちの個性が光ります。
2) 石舞台公園で行われた凧揚げ。空高く揚がりました。

お知らせ

高松塚壁画館で企画展 「飛鳥・藤原の世界遺産」を開催!

高松塚壁画館では毎年、夏・冬に企画展を開催しています。現在、世界遺産への登録を目指している「飛鳥・藤原の宮都」は3つの分野で構成されており、当館ではそれぞれの分野ごとの構成資産をパネルで紹介する予定です。今夏の企画展テーマは「飛鳥・藤原の世界遺産 -宮殿と官衙-」。飛鳥宮跡など、5つの構成資産について解説しています。(9月中旬まで開催中)。また新たな取り組みとしてナイトミュージアムを実施。真っ暗にした石槨模型の内部を懐中電灯で照らして、壁画が発見された当時と同じようにのぞき込んでもらいました。ぜひあなたも50年前の壁画発見当時の感動を味わってください。(本企画は不定期で実施予定)



1



2

1) 原寸大の石槨模型
2) 高松塚壁画館の館内
3) 西壁女子群像再現模写

3



事務局より

あなたも飛鳥応援大使になりませんか?

今年は飛鳥応援大使同士の交流イベントとして、古代衣裳を着て明日香村内を散策する企画が実施されました。講師は、同じく応援大使の畠井浩さん。参加者の方々は、畠井さんの説明を聞きながら飛鳥への理解をさらに深めておられました。

飛鳥の魅力を全国に発信する応援大使は、各任地(お住いの場所)で様々なPR活動に取り組んでいます。そんな飛鳥応援大使に、あなたもなってみませんか? 応募資格はたった一つ、『飛鳥をこよなく愛すること』です。詳細は古都飛鳥保存財団HPまで。

飛鳥駅にて。イベント当日、古代衣裳の一行はどこに行っても注目の的でした。



Panasonic



発行・お問合せ 公益財団法人 古都飛鳥保存財団

〒634-0138 奈良県高市郡明日香村大字越13-1 TEL:0744-54-3338 FAX:0744-54-3638 E-mail:info@asukabito.or.jp

編集制作／合同会社EditZ

※本誌の記事、写真の無断複写・転載を禁じます。※本誌記載内容は2025年8月現在のものです。

公式HP



公式Instagram



KOTO_ASUKA

「万葉うたがたり会」を主宰し、和歌を自作のメロディーにのせて歌う独自のスタイルで、『万葉集』の世界を感性豊かに表現する岡本三千代さん。万葉学者・犬養孝のもとで学び、一人でも多くの人に万葉の心を知ってほしいと活動しています。犬養先生との思い出がたくさん詰まった飛鳥の魅力をお聞きしました。

万葉歌の魅力を 旋律にのせて伝えたい

稲渚集落の近くにある「飛鳥川の飛び石」。ここは犬養先生に何度も連れてきてもらった思い出の場所です。川のほとりには犬養先生が揮毫された「明日香川 明日も渡らむ 石橋（いはし）の遠き心は 思ほえぬかも」の万葉歌碑も。石橋とは飛び石のことです。

岡本 三千代

おかもと・みちよ

兵庫県出身。甲南女子大学文学部国文学科卒業。万葉研究の第一人者・犬養孝に師事し、『万葉集』を学ぶ。自作の曲をつけてバンド演奏と共に歌う「万葉うたがたり」や講座活動を通し、『万葉集』の魅力を生き生きと伝える。2014年～2024年、犬養万葉記念館館長。

犬養先生との出会いはいつですか？

私が甲南女子大学文学部に進学した1981年に犬養先生が赴任してこられ、楽しくお話しされる万葉集、そして先生に魅了され、3年生でゼミに入りました。ゼミでは全国各地の万葉故地を訪ね歩き、「犬養節」と称される独特の節回しに合せて和歌を朗唱しました。飛鳥で最初に訪れたのは甘樫丘です。当時は一般の立ち入りが禁じられていた国有林だったのですが、「僕と一緒にいたら大丈夫だから」とおっしゃって（笑）。藪をかき分けながら後をついて登ると、素晴らしい眺望が広がっているんです。あの辺りで一番見晴らしがいい場所だということを先生は知っておられて、よく一緒にお月見をしました。

「万葉集というのは人生の百科事典だから。人生のどんな場面にも当てはまる

歌があるんだよ」。それが先生の口癖でした。音楽大学を目指していたものにならず、曇りがちの心を抱えて入学した私にとって、犬養先生との出会いは人生の新たなスタートになりました。

「万葉うたがたり」を始めたきっかけは？

犬養先生の大阪大学時代の教え子、扇野聖史さんに勧められたのがきっかけです。万葉集の研究をライフワークにされた扇野さんは、ウクレレを弾きながらアダモの『雪が降る』のメロディーで天武天皇の歌を歌われるような方。「万葉集は犬養節だけじゃなく、自分たちでも楽しめるんだよ」と作曲を勧められ、大伯皇女と天津皇子の姉弟の悲話をモチーフにしたオリジナル曲『三上エレジー』を作りました。

当初は、勝手なことをして大丈夫だろ

うかと不安でしたが、犬養先生からも「いろいろな人に万葉集を知っていただけたら、どんどんやりなさい」と言っていただけ。万葉衣装をまとい、ピアノやシンセサイザーなどの伴奏で歌い、語るスタイルが出来上がりました。

犬養先生が亡くなって四半世紀経ちますが、90代ぐらいかつての教え子の方が来館されたり、初めて来られた方が万葉ファンになつてくださったり。飛鳥は日本人の心のふるさと。この豊かな自然の中に今も万葉びとの思いが息づいていて、歩くたびに新しい発見があります。飛鳥には犬養先生が揮毫された万葉歌碑が15基あり、そばを通るたび、「よく来てくれたね」と笑う、先生の優しい声が耳によみがえります。

岡本さんにとって飛鳥はどんな場所？

犬養万葉顕彰会初の女性会長として、犬養万葉記念館の開館当初から関わってきました。館長を務めた10年間、素敵な出会いがたくさんありました。

- 1) 万葉故地を巡るときに必ず持って行く、犬養先生の著書『万葉の旅』。全3巻あって、写真は上巻「大和」編。
- 2) 万葉うたがたり会のコンサートの様子。万葉衣装を着てステージに立ちました。
- 3) 「万葉うたがたり」の曲を収録したCD『恋歌』シリーズ。左の色紙は犬養先生が書いてくださったCD帯のキャッチコピー案。
- 4) 犬養万葉歌碑は全国に141基。その記念すべき第1号は甘樫丘にあります。刻まれるのは志貴皇子の「采女の 袖吹きかへす 明日香風 都を遠み いたづらに吹く」。万葉歌の中でも私の一番好きな歌です。
- 5) 明日香村にある犬養万葉記念館（※現在休館中。2025年秋リニューアルオープン予定）
- 6) 1998年、川原寺万葉歌碑にて。犬養先生と最後に二人で飛鳥を訪れたときの写真です。



1



2



3



4



5



6



飛鳥フアンの裾野を広げた 結成18年の歴史サークル

今年5月末まで、ウォーキングや講師による講演会を中心に、飛鳥の魅力を発信してきた歴史サークル「**両槻会**」。
名前の由来になった「ふた月に一度」の定例会は2007年から18年間続き、延べ2205人の参加者を数えました。
会の創設者で事務局長を務めた風人さんに、飛鳥への思いを伺いました。

肩書や知識の差を気にせず、飛鳥好き同士が楽しく交流できる場所にと誕生した両槻会。風人さんをはじめ6人のスタッフも定例会ごとの参加者も、全員「ツクネーム」で呼び合うスタイルでした。

「歴史を身近に感じられるよう、講演会の前には必ず現地を訪ねました。私の役目は、専門家の話をかみ砕き、面白く伝える、通訳者」。飛鳥宮跡で『乙巳の変』の寸劇を披露したり、『有間皇子護送劇』なんて言いながら和歌山までの

- 1)「18年間活動を続けられたのは、飛鳥そのものの魅力が大きい」と風人さん。「これからも体力が続く限り、令和あすか塾など、学ぶ機会を多く持ちたいです」。
- 2)5月25日に開催した両槻会最後の定例会。帝塚山大学との共催イベントで猿石や飛鳥宮跡などを巡り、現地解説を行いました。
- 3)同じ日の午後、両槻会の解散式が執り行われました。「今まで、進んで講師を引き受けてくれた大学や博物館の先生方、苦楽を共にしたスタッフに対し、感謝しかありません」。

「**紀路**」30kmを歩き通したり。自由で楽しい会でした」。

会社勤めの傍ら、多い時には年間70回以上飛鳥に通ったという風人さん。隅々まで知り尽くしているからこそできる「奥飛鳥の滝巡り」などユニークな企画の数々に、東京から泊りがけで参加する常連さんもいたそうです。

「政変や内乱などいろんなドラマが生まれた飛鳥時代は、ある意味すごく、人間らしい時代でした。奈良時代ほど詳細な記録が残っていないため、誰でも想像を膨らませる余地があることも大きな魅力です」。

高校を卒業後、30年以上東京都で暮らしていた風人さんが飛鳥に興味を持ったのは、出席した橿原市内の町会で、地元のお年寄りから歴史話を聞いたのがきっかけでした。まるで見てきたように誇らし

げに語られる藤原京の歴史が面白く、飛鳥時代について調べるようになったといいます。

折しも当時は亀形石造物や巨大な庭園跡の発見など、飛鳥宮跡の発掘ラッシュ。「学べば学ばほど謎が深まり、好奇心が止まりませんでした。このワクワクを共有したくて、会を立ち上げたんです」。

講師を頼んだことからつながりのできた帝塚山大学とはたびたび共催イベントを開き、学生たちに積極的に現地解説を任せました。「卒業して奈良を離れても、ふとした折に飛鳥に足を運んでくれることがあれば、私たちも幸せです」。

健康面の不安から会を終了させたものの、飛鳥フアンの裾野は広がられたのではと感じている風人さん。飛鳥応援大使として、これからも飛鳥に関わり続けたいと笑顔で語りました。

令和あすか塾 《特別講座》

飛鳥時代は現代日本の礎を築いた時代である。
天武天皇は大きな権力で国造りを進めたことで有名である。
では、天武天皇はどのように権力を手に入れ、どのような意図で治世を行ったのか。
そして後の天皇は、その力をどのように利用したのだろうか。



松井 一晃
橿原市魅力創造部文化財保存活用課課長補佐。東京学芸大学大学院修士課程修了。専門は日本考古学。奈良県橿原市で藤原京跡など発掘調査に従事するとともに、「歴史に憩う橿原市博物館」学芸員として歴史資料を素材にした展覧会やワークショップを企画・開催。誰もが楽しめる博物館づくりを目指し、「ユニバーサルミュージアム」の取り組みにも力を注ぐ。

天武天皇の権力と治世

正当性の確立

『日本書紀』において、大海人皇子は実戦的戦術と心理的戦術を立て、壬申の役を周到に計画している。前者は、いわゆる兵法である。大海人皇子は情報戦の結果、いち早く不破の関を封鎖し、東国の兵力の確保に成功する。

しかし、戦いでは心理的戦術も重要である。大海人皇子は天智天皇への忠誠を見せると同時に、壬申の役が不可抗力であり、「乱（正乱）ではなく、「役（正戦）」であると位置づける。さらに、壬申の役では天照大神に勝利を願ひ、事代主



藤原宮跡

権力の強化と可視化

神、生霊神などの神を大海人皇子の「支持者」または「援助者」として登場させる。それにとどまらず、神武天皇もが大海人皇子を味方しているとアピールして自らの正当性を確立する。つまり、壬申の役において大海人皇子は一貫して自らを正当化し、官軍として位置づけるのである。

壬申の役に勝利したとはいえ、国際情勢や国内情勢は内憂外患であった。その中で、天武天皇は強大な権力で国造りをする。そのポイントは、自らの正当化、権力の可視化、人と土地の掌握である。

『日本書紀』によれば、天武天皇の在位中、毎年のように祥瑞が報告される。祥瑞は天が天武天皇を認めた証明であり、それを臣下に示すことで自らの正当性を可視化するのである。加えて、正史である『日本書紀』を編纂することで自らの正当性を後世に伝えることができる。

権力の可視化は人の掌握とも深く関係する。天武天皇は近江軍だった者も臣下にする必要があった。壬申の役での極刑は、右大臣中臣連金ら8名であり、それ以外の者は赦していることは、それを示しているのだろう。天武天皇は、論功行賞や八色の姓の詔等を通して人の掌握と身分の可視化を進める。即位祝賀使として新羅から来た金承元に対し、「天皇は天下を平定し」と伝えただけでなく、土地に関する詔を何度も行い、土地の掌握も図る。

加えて天武天皇の治世では、当時の最新の文化を結集した、人々がこれまでに見たことがない風景の創出ともいえる新都造営や日本最初の銅銭である富本銭の鑄造等、様々な新しい取り組みを行う。

このようにして天武天皇が手に入れた権力は、これまでの天皇の比ではなかった。斉明天皇は、宮の東の山に石を積んで垣とするために、石上と飛鳥を繋ぐ溝を掘った。しかし、その溝は「**狂心渠**」と揶揄され、自身も「工事を好む天皇」とされてしまう。一方、天武天皇は斉明天皇よりもさらに大規模な新都＝藤原京の造営に着手するが、人々に非難されるところか、「大君は神にしませば」とほめたたえられる。

天武天皇とつながる

天武天皇は、その治世において結果的に強大な権力を手にし、ハード、ソフトの両面で新しい国造りを行った。しかし見方を変えれば、これらは天武天皇が一貫して持ち続けた新しい国造りのコンセプトを達成するために必要な手段だったといえよう。

天武天皇の後を継いだ持統天皇と文武天皇は、天武天皇の力を最大限に活かす。持統天皇は藤原京へ遷都した。文武天皇は自らの陵を天武・持統天皇の陵と同じ八角形墳とした。その背景に天武天皇とのつながりを意図したとする近年の研究がある。藤原京で治世を行った天皇にとっ

て、天武天皇は非常に大きな存在だったのである。
天武天皇による国造りの方法は、現代、世界の国々で見られる支配の手法と共通点が多い。しかも、その手法は世界史を紐解いても一般的なものである。人の本質は変わらないからこそ、歴史は繰り返す。だからこそ、未来の社会を考えるうえで、歴史は重要なヒントを私たちに与えてくれるのではないだろうか。



定例会で参加者に配る自作のレジュメ。

古都飛鳥の美しい森林景観を後世に残したい



明日香村森林組合 森林作業員
西本 将
にしもと・まさる



飛鳥の美しい景観を守るため、森林作業員として働く西本将さん。高校を卒業後、一度は奈良を出て北海道で酪農業に就いたものの、「山に囲まれた景色が恋しくなつて」Uターン。子どもの頃に親しんだ奥飛鳥の山林が荒れていることに胸を痛め、10年前に明日香村森林組合に就職しました。当時19歳でした。

木の伐採には「皆伐」と「間伐」があります。全国的には対象区域内の樹木を全て伐採する「皆伐」が主流ですが、狭い地形の多い奈良県では木を間引く「間伐」が中心。加えて明日香村は「古都保存

法」や「明日香法」によって歴史的風土が守られ、山林整備にも景観を重視した細かな規制があるといっています。

「ただ成育不良の木を伐ればいいわけではなく、10年、20年先の山林の姿を想像し、伐るべき木と残すべき木を決めています」と西本さん。

高木や巨木にロープを使って登り、枝や幹を先端から徐々に切り崩していく「特殊伐採」や奈良県林業作業士などの資格を取り、仕事の幅を広げながら、現場管理責任者として活躍しています。

「この仕事をしていて一番うれし

いのは、昔間伐した山が見違えるほどきれいになっているのを見た時です。後世に残る仕事ができているなと実感するんです」。

山を整備し、崖など危険な箇所の草刈りをし、獣害も防ぐ。飛鳥の景観を支えているとの自負を持ちつつ、西本さんは林業の課題も直視しています。

「植林し、枝打ち、間伐を経て市場に出せる木になるまで40年今の形ではいずれ林業は立ち行かなくなると考えています」。

そこで温めているのが、林業と農業の連携。耕作放棄地の活用を兼ね、ペットの猫向けにニーズが高まっているマタタビの栽培を始めました。また、将来は山林に人が集まることの出来る拠点を置いて「シェアフォレスト」にし、外部の人を呼び込む夢を描いています。

「まだ構想の段階ですが」と笑う目には、飛鳥の里山の明るい未来が、もう映っているのかもしれない。



- 1) 明日香村森林組合で現場管理責任者を務める西本将さん。自身の経験を生かし、安全に作業できるよう後輩を指導しています。
- 2) チェーンソーのオイルや伐採用のクサビなど、作業時に常備する道具。
- 3) 森の中でも目立つ赤紫色の作業着は当組合のオリジナル。背中には地元的女子中学生が描いたロゴマークが入っています。

君が手取らば

飛鳥と『万葉集』
ゆかしの葉

と檜の隈 檜隈川の 瀬を速み
君が手取らば 言寄せむかも
(巻七・二〇九 作者未詳)

この歌は、檜隈の地を流れる檜隈川の流れが早いから、とあなたの手を取ったら、人々は言いたるだろうかなあ、という恋の思いを表現した歌です。

「君」という言葉は男性に対する呼びかけの言葉で、多くは女性が意中の男性を呼ぶときに使われました。一方、男性が意中の女性へ呼びかけるときは「妹」や「吾妹子」などを用いました。

川の流れにことよせて好きな人の手を取るというモチーフは、地名を変えてほかにも詠まれています(『万葉集』巻三三八五番歌、『古事記』仁徳天皇条歌謡など)。女性の側から手を取りたいと表明する例は珍しく、この歌の作者は当時の女性としては積極的だといえますが、何かにことよせて好きな人に触れたい、手をつなぎたい、と思うのは、時代も性別もこえて共通する感情かもしれません。

飛鳥駅から徒歩十分足らずで行ける場所にこの歌の歌碑があります。



檜隈川万葉歌碑
場所／明日香村下平田(飛鳥周遊歩道 下平田休憩園地)



奈良県立万葉文化館
井上さやか
博士(文学)。専門は『万葉集』を中心とした日本文学・日本文化。現在、奈良県立万葉文化館企画・研究係長。近著に『中西進と万葉画を楽しむ』(淡交社)など。

駅前ロータリーを抜けて高取川にかかる橋を渡った先、徐々に上り坂になる鬼のまな板・鬼の雪隠へ向かう道の途中の木立の中にひっそりと建っています。「佐檜乃熊 檜隈川之 瀬乎早 君之手取者 将縁言轟」と、本来の万葉歌の書き方で揮毫されていますので、探してみてください。

現代で檜前川と呼ばれている小川はこの歌碑の建つ場所よりも少し南を流れています。古代には高取川東岸のこの辺り一帯を広く檜前と呼び、歌に詠まれた檜隈川とは現在の高取川を指したといわれています。

過去問に挑戦! (第2回初級編の3・47問目)

Q 奈良盆地南部を一直線に東西を貫く古道はどれか?

ア.太子道 イ.上ツ道 ウ.横大路 エ.下ツ道

Q 桜井市高田で行われる「いのこ暴れまつり」で、お飯屋に吊るされるものはどれか?

ア.ミニチュアの家 イ.ミニチュアの農具
ウ.ミニチュアのおせち エ.ミニチュアの猪人形

※正解は古都飛鳥保存財団のHPをご覧ください。



第3回「飛鳥・藤原まると博物館」検定
令和7年12月13日(土)に開催。
初級編合格者は中級編、中級編合格者は上級編を受検できます(申込締切10/31)。

これから受検される人にアドバイスがあれば教えてください。

テキストを何回も読んで頭に入れる、でしょうか。あとは過去問を解いておくこと。出題傾向を把握して試験に挑むのがいいと思います。

読者にメッセージをお願いします。

飛鳥に行ったことがない方や、奈良から離れた場所にお住まいでなかなか現地に行けない方も、飛鳥に興味がある方はぜひ受検してほしいです! 検定を通して飛鳥の魅力がもっと広まればいいなと願っています。

「飛鳥・藤原まると博物館」検定 合格への道

高校3年生の挑戦!

高校3年生のときに第2回検定(初級編)を初受検し、合格した柳谷勇翔さん。この春から大学生になり、奈良市にある帝塚山大学で日本文化を学んでいます。柳谷さんに、検定にまつわるエピソードをお聞きました。



柳谷勇翔さん。奈良県生駒市出身。帝塚山大学文学部日本文化学科1年生。(撮影協力／帝塚山大学附属博物館)



「僕が通う帝塚山大学の附属博物館には、アジア各地の古瓦が展示されています」。

検定を受けようと思った理由は何ですか?

進学先がほぼ決定していた昨年9月、本屋さんで検定の公式テキストを見つけて、面白い本だなと購入したのがきっかけです。帝塚山大学のオープンキャンパスに何度か参加していて、その時に受講した考古学の清水昭博先生がテキストの編集に携わっておられたことにもご縁を感じました。受検会場が帝塚山大学だったことも決め手の一つです。

検定に向けてどんな勉強をしましたか?

もともと古代史が好きだったので、テキストは毎日読んでいました。わからなかったところや、複数回出てくる名前と事柄には付箋を立てて、ひたすら読み込みました。

出題内容はいかがでしたか?

遺跡・古墳、民俗・伝承のところは少し難しかったです。桜井市の祭りや石棺の石材に関する問題など、「これが出るか〜!」と思うものもありました(笑)。